



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立有明小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

開放図書館となって3年目。子どもたちはもちろん、大人が利用することも“普通のこと”となってきました。本の貸出・返却の業務は、午前中は、子どもの活動として、午後は図書ボランティアの方の活動として行われています。



今年度も新規に100冊程度の図書を購入しました。小規模校のため、“図書室”がなく、蔵書を保管するスペースがありません。子どもたちが読書への関心を高め、楽しみながら“読書に浸る”ことができるようなものを購入できるように心がけています。



みなながら“読書に浸る”ことができるようなものを購入できるように心がけています。

学習センターとしての機能

国語や理科、社会など、教科で調べ学習に取り組むとき、総合的な学習の時間で調べたものを新聞やレポートにまとめるとき、図書コーナーの本が使われています。事典等の資料を活用したり、まとめ方そのものを調べて参考にしたり、子どもたちは工夫して活用しています。

1人1台端末の活用で、インターネット検索等は容易なものとなりました。それと並行して、事典等の詳しい挿絵や資料をじっくり見ながら調べることで、より深い学びにつなげることができています。

今年度は、各学年・各教科の教科書に出てくる図書のコーナーを作りより学習で活用しやすくしました。



今後、学習に生かしていきたいです。

情報センターとしての機能

本校の「アカゲラコーナー」には、沿革史を始めとした当時の貴重な資料が残っています。本校が小規模特認



の指定となり、校区外からも児童が通うようになってからは、有明地区の歴史について知る機会として地域の方々との交流する場としても活用されています。

今年度からは「アイヌの本」のコーナーや“キャリア教育”のコーナーも充実させ、多様なニーズにも対応できるように工夫を重ねています。



様々な情報交換の場として、地域を結ぶ場として、活用の幅を広げています。